

## <事例報告③>

「エフピコモデルの資源循環型リサイクル  
～トレー to トレー & ボトル to 透明容器～」

株式会社エフピコ 執行役員 サステナビリティ推進室  
ジェネラルマネージャー 富樫 英治



## エフピコモデルの資源循環型リサイクル

トレー to トレー & ボトル to 透明容器



2026年1月13日  
株式会社エフピコ  
サステナビリティ推進室

1

## 自己紹介

### 株式会社エフピコ

執行役員 サステナビリティ推進室

ジェネラルマネージャー

富樫 英治 (とがし えいじ)

#### 【略歴】

2000年 株式会社エフピコ 入社

営業企画部、総務部、人事部と主に管理部門に従事

2010年 経営企画室 シニアマネージャー

2012年 環境対策室 ジェネラルマネージャー 就任

2022年 サステナビリティ推進室 に呼称変更

2025年 執行役員 ジェネラルマネージャー (現任)



2

# 会社概要

|        |   |   |
|--------|---|---|
| 設立     | 1962年(昭和37年)7月24日                               |   |
| 代表者    | 代表取締役会長 兼 エフピコグループ代表 佐藤 守正<br>代表取締役社長 安田 和之     |   |
| 資本金    | 13,150百万円                                       |   |
| 従業員    | 984名 (エフピコグループ: 5,104名)                         |   |
| 本社     | 福山本社(広島県福山市)<br>東京本社(東京都新宿区)                    |   |
| 主な事業内容 | ポリスチレンペーパーおよびその他の合成樹脂製簡易食品容器の製造・販売並びに関連包装資材等の販売 |   |
| 連結業績   | 2025年3月期実績<br>連結売上高 2,356億円<br>経常利益 184億円       | 2026年3月期計画<br>連結売上高 2,425億円<br>経常利益 215億円 |

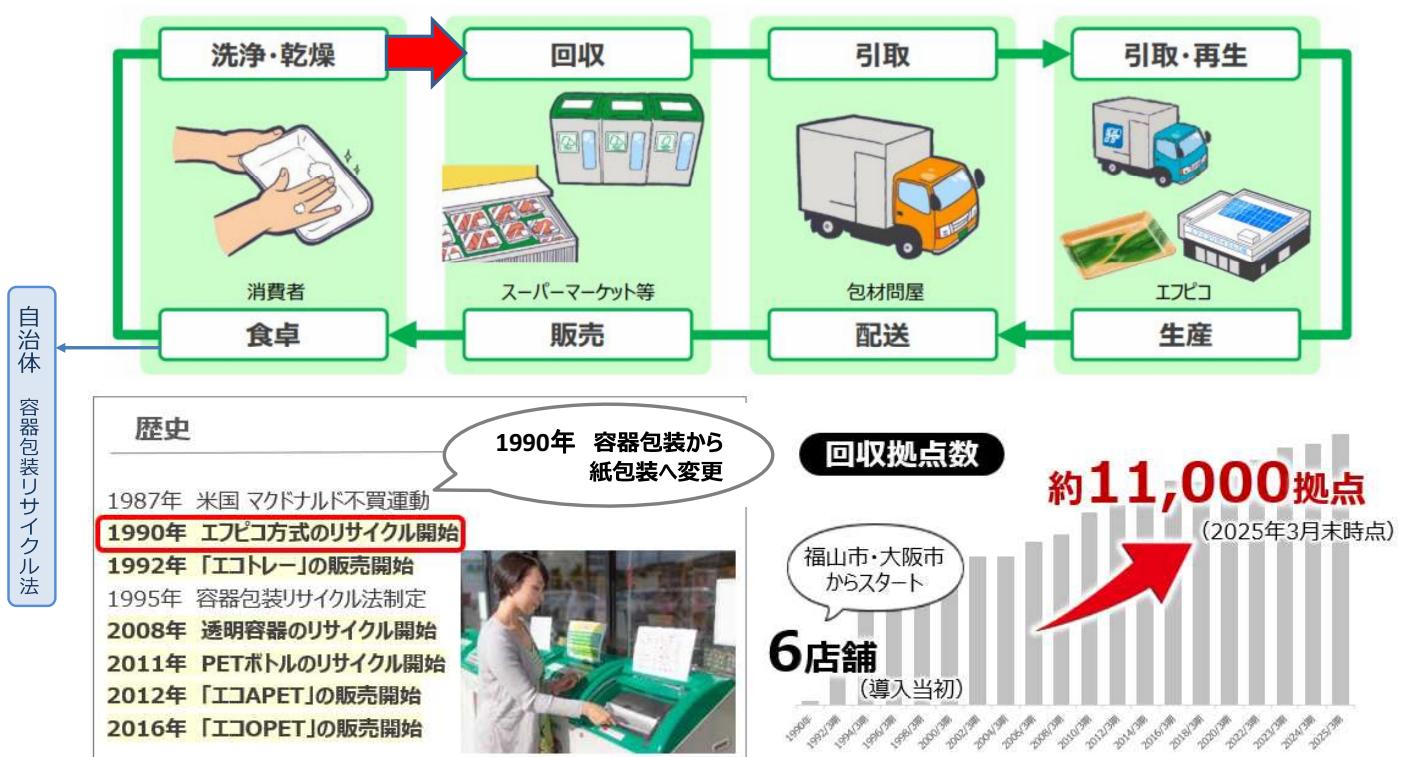


福山本社



東京本社

## エフピコモデルのリサイクル ①発泡トレー



## エフピコモデルのリサイクル ①発泡トレー

①搬入



各リサイクル工場・選別センター

②選別



白・柄・不適品に選別

③風力選別



細かな異物を除去

④洗浄・すすぎ・脱水



热水や洗剤で洗浄

⑤溶融・押出



高温で加熱、粒状に加工

⑥完成

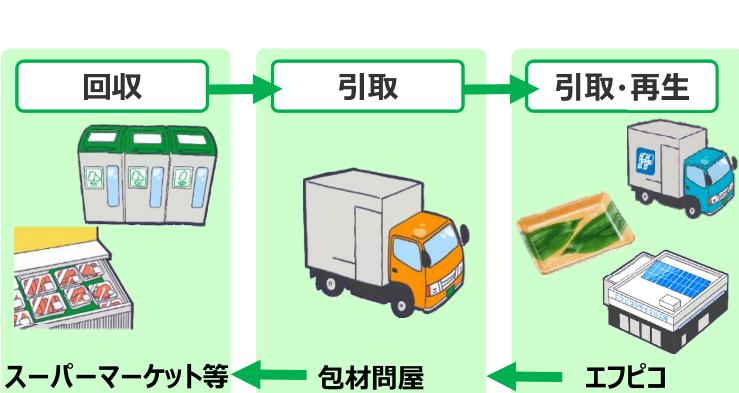


食品容器グレードのペレット

## エフピコモデルのリサイクルのポイント 入り口と出口

①回収システムの構築

帰り便を活用 逆流通システム



②再商品化の方向

エコトレーに成形加工

再生ペレット



加工先



※黒ペレットは外販



## エフピコモデルのリサイクル ②透明容器

自治体  
容器包装リサイクル法



7

## エフピコモデルのリサイクル ②透明容器（素材識別）

### ①搬入



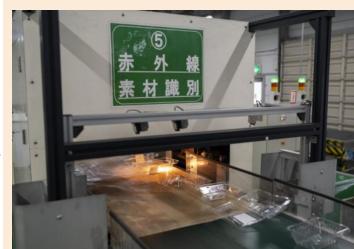
各リサイクル工場・選別センター

### ②手選別・整列



選別、容器をタテに並べる

### ③素材識別・選別



近赤外線で素材を識別



素材ごとに分ける

### 透明容器素材

PET



約50%

OPS



約30%

PP



約20%

その他



OPSペレット



PETフレーク

8

# エフピコモデルのリサイクルのポイント 回収と運搬



各地で選別・圧縮して  
リサイクル工場へ輸送



## 能力を最大限に活かすダイバーシティ経営



### エフピコグループ 2025年3月時点

|           |         |
|-----------|---------|
| 障がい者雇用人数  | : 401名  |
| 障がい者雇用換算数 | : 676名  |
| 障がい者雇用率   | : 12.6% |

### 障がい者雇用に関する評価

- 2019年1月 (厚労省)  
「H30年度 障害者活躍企業」認証  
(エフピコダックス株)
- 2024年9月 (東洋経済新報社)  
「障害者雇用率ランキング」 3位
- 2022年6月 (厚労省)  
「障害者雇用に関する優良な中小事業主に対する  
認定 (もにす認定) 」 (エフピコダックス株)



## エフピコモデルのリサイクル ③PETボトル

自治体  
容器包装リサイクル法

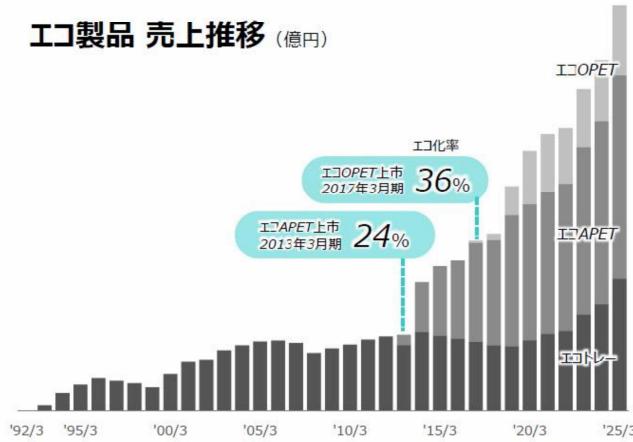


## プラスチック資源の回収量

※枚数・本数は、標準的なグラム数にて換算  
PSP : 4g、透明容器 : 10g、PETボトル : 25g

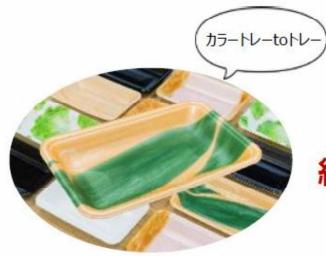
| 回収重量                        |   |                     |                     |                     |                     |
|-----------------------------|---|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
|                             | '21/3実績                                   | '22/3実績             | '23/3実績             | '24/3実績             | '25/3実績             |
| 容器<br>(PSP・透明容器)            | 回収ルート<br>スーパーマーケット店頭<br>指定法人ルート           | 10,000トン<br>(約21億枚) | 10,300トン<br>(約22億枚) | 10,400トン<br>(約22億枚) | 10,500トン<br>(約22億枚) |
| PETボトル                      | 回収ルート<br>指定法人ルート<br>スーパーマーケット店頭<br>事業系ルート | 75,000トン<br>(約30億本) | 73,000トン<br>(約29億本) | 81,000トン<br>(約32億本) | 80,000トン<br>(約32億本) |
| <b>回収重量合計</b>               |   |                     |                     |                     | 90,000トン            |
| 製品販売重量に対する<br>使用済み製品の回収重量比率 |   |                     |                     |                     |                     |
|                             | 42%                                       | 40%                 | 44%                 | 44%                 | 42%                 |

# エコ製品の販売実績



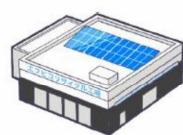
エコ化率伸長により  
シェア拡大・収益性の向上

PSP : 溶解分離リサイクルの技術



エコトレーの販売ケース数  
**約30%増加**

PET : 再生原料の生産能力増強



エコ原料生産能力  
**6.5万トン ▶ 7.5万トン**  
(2026年春予定)

## エコ製品によるCO<sub>2</sub>排出量削減 【気候変動対応】

### エコトレー

CO<sub>2</sub>削減効果  
**30%**



2024年7月1日出荷分～

**37%**

太陽光発電  
稼働時期

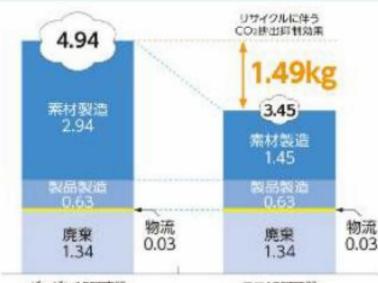
2022年 3月 関東リサイクル工場  
2022年10月 中部リサイクル工場  
2024年 3月 福山リサイクル工場



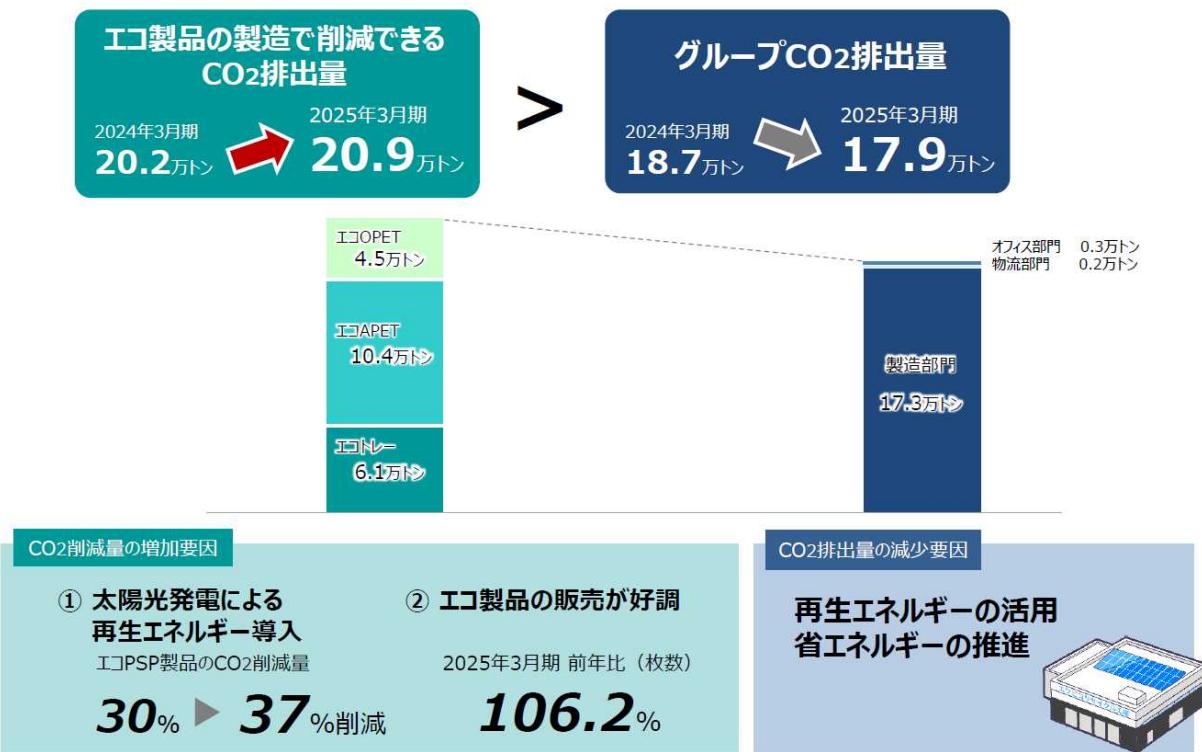
### エコAPET・OPET容器

CO<sub>2</sub>削減効果

**30%**



## エコ製品によるサプライチェーンへのCO<sub>2</sub>削減貢献量



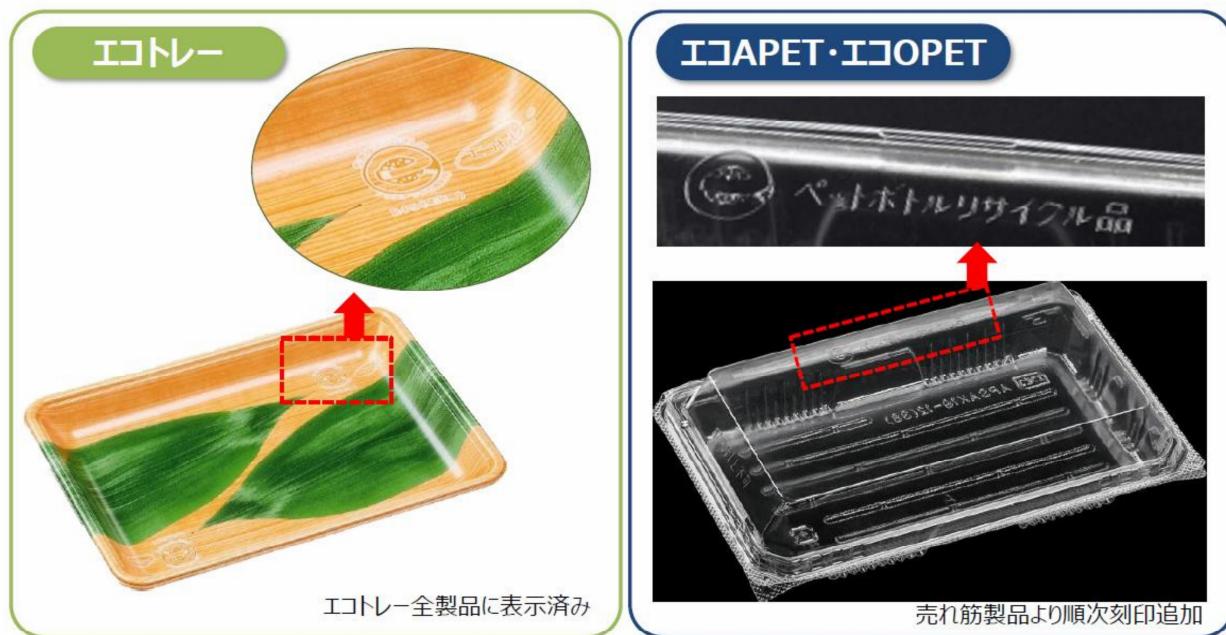
## お店を発着点とした「ストアtoストア」

お店で使用・販売した食品トレー・ペットボトルは  
そのお店で資源として回収し、食品トレー・透明容器に再生して、  
また そのお店で積極的に使用する



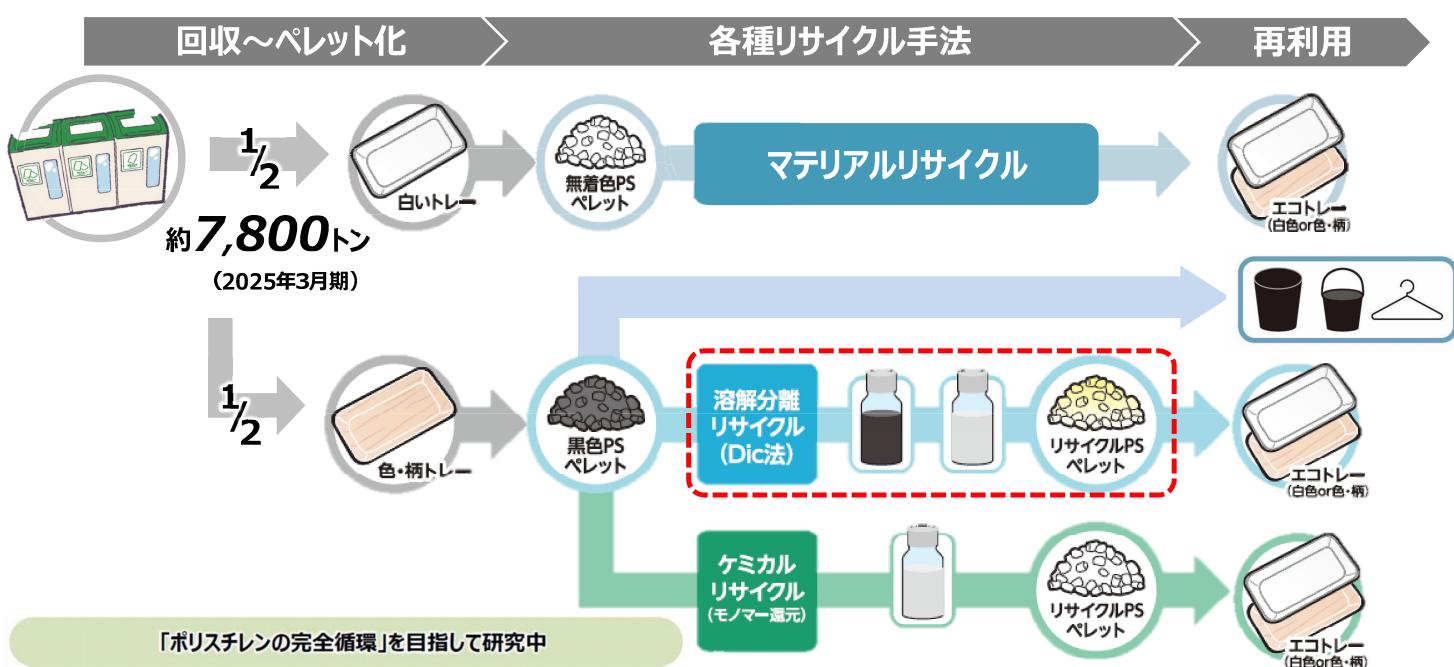
# エコ製品の消費者への訴求

環境に配慮した製品であることをわかりやすくするため  
エコ製品に「エコマーク」「ペットボトルリサイクル品」を表示刻印。



17

## エコトレーの販売拡大に向けて



18

# エフピコ環境基金の創設



エフピコ環境基金  
The FP Corp. Environment Fund

1990年 「エフピコ方式のリサイクル」をスタート  
2020年3月 「エフピコ環境基金」を創設  
これからの社会的課題の解決をテーマに活動する団体への助成

助成実績

| 年        | 助成団体数 |
|----------|-------|
| 2021年3月期 | 10団体  |
| 2022年3月期 | 14団体  |
| 2023年3月期 | 14団体  |
| 2024年3月期 | 22団体  |
| 2025年3月期 | 17団体  |



## 助成先団体の活動（一部紹介）

エフピコグループ社員もボランティアとして参加

荒川クリーンエイド・フォーラム(東京都)



棚田LOVERs(兵庫県)



河北潟湖沼研究所(石川県)



19



ご清聴ありがとうございました

20

## **<事例報告④>**

**「プラスチックの資源循環における広島県の取組  
～海洋プラスチックごみ対策とプラスチックリサイクル  
の高度化の取組～」**

**広島県 環境県民局 環境担当部長 岡田 誠司**



# プラスチックの資源循環における広島県の取組

～海洋プラスチックごみ対策と  
プラスチックリサイクルの高度化の取組～

令和8年1月13日



広島県環境県民局  
環境担当部長 岡田 誠司

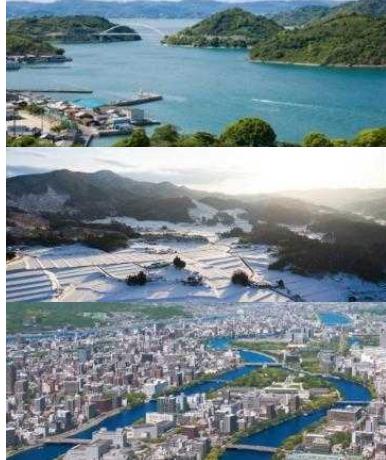
## 目次

### 1. 広島県について

2. 社会情勢の変化
3. 広島県におけるプラスチック資源循環の全体像
4. 海洋プラスチックごみ対策
5. プラスチックリサイクルの高度化

# 広島県について

- 人口は約269万人（R7.11時点）。ヒスイ色にきらめく穏やかな瀬戸内海、四季を魅せる中国山地など豊富な**自然**と、広島市などの**都市が融合**する、「**日本の縮図**」のような地域
- 産業面ではモルテンやミカサ等、オンライン・ナンバーワン企業が揃っているほか、マツダをはじめとした自動車産業や鉄鋼、造船、半導体産業等多様な産業が瀬戸内海岸を中心に集積しており、
- **プラスチック資源循環に係る研究・開発、実証・実装の場に適した地域**



## 目次

1. 広島県について

## 2. 社会情勢の変化

3. 広島県におけるプラスチック資源循環の全体像

4. 海洋プラスチックごみ対策

5. プラスチックリサイクルの高度化

# 環境分野における社会情勢の変化

2023年のG7広島サミットにおいて、地球が直面する3つの世界的危機  
**「気候変動・汚染・生物多様性の損失」**が示され、国際的に持続可能な社会の実現に向けた取り組みの重要性が高まっている。

## 気候変動

- ・パリ協定、国温対策など、脱炭素の推進の必要性
- ・日本においてGX戦略の策定等の動き

## 汚染

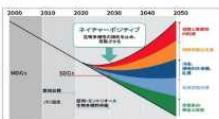
- ・生態系影響の顕在化等、海洋プラスチック問題の深刻化
- ・グローバル企業等における商品・サービスにおける脱プラの動き

## 生物多様性の損失

- ・気候変動や環境汚染、資源消費により生態系バランスが崩れ、生物多様性の損失が深刻化

## 解決に向け、

「経済及び社会システムをネット・ゼロで、循環型で、気候変動に強靭で、汚染のない、ネイチャーポジティブな経済へ転換すること、2030年までに生物多様性の損失を止めて反転させることにコミットする」と宣言



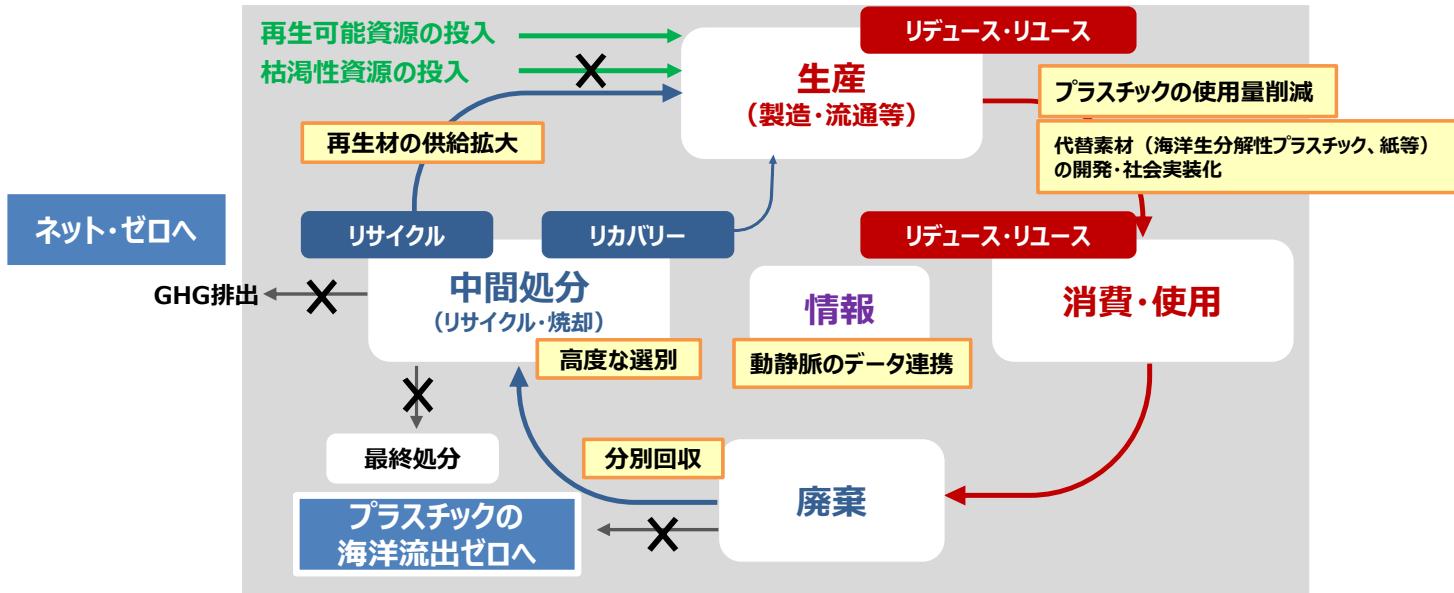
| 分野            | 変化・課題   |
|---------------|---|
| 地球温暖化対策       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2050年ネット・ゼロカーボン社会の実現</li> <li>・2035、2040年GHG排出量削減目標の設定（国温対策）</li> <li>・2040年再エネ導入目標4～5割（エネ基計画）</li> <li>・データセンター設置の増加（消費電力↑）</li> <li>・カーボンニュートラル投資促進税制の拡充（2024.4）</li> <li>・排出量取引制度の本格稼働（年10万t以上の企業に義務化）（26年度～）</li> <li>・化石燃料賦課金制度の導入（2028年度～）</li> </ul>           |
| 循環型社会の実現      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・循環経済（サーキュラーエコノミー）への移行（国第5次循環型社会形成推進基本計画）</li> <li>・再資源化事業等高度化法の一部施行（資源循環のための事業者間連携（動脈連携））（2025.2）</li> <li>・国の食品ロス削減取組方針の見直しによる、未利用食品等を提供するための活動（食品寄付）等の取組強化</li> <li>・多発する災害への対応（災害廃棄物処理体制の強化、被災した建築物からのアスベスト飛散防止等）</li> <li>・廃棄物処理施設（最終処分場等）の周辺地域の不安への対応</li> </ul> |
| 地域環境の保全       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2040年までに追加的なプラスチック汚染をゼロとする野心に合意（G7広島）</li> <li>・瀬戸内海特別措置法改正に伴う栄養塗類管理制度の創設</li> <li>・PFAS等による新たな汚染への対応（化学物質、マイクロプラスチック等）</li> <li>・アスベスト等の規制の強化</li> </ul>   |
| 自然環境・生物多様性の保全 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2030年までに陸域及び内陸水域の少なくとも30%、海洋及び沿岸域の少なくとも30%を効果的に保全及び管理するという目標（30by30）を2022年12月 COP15で採択</li> <li>・国立公園整備プロジェクト</li> <li>・鳥獣保護管理法指定管理鳥獣へのクマ類の追加</li> <li>・鳥獣保護管理法の改正（人の日常生活圏に侵入したクマ類等を捕獲するための緊急銃猟の実施）</li> </ul>  |

## 目次

1. 広島県について
2. 社会情勢の変化
3. 広島県におけるプラスチック資源循環の全体像
4. 海洋プラスチックごみ対策
5. プラスチックリサイクルの高度化

## 広島県におけるプラスチック資源循環の全体像

- 本県では、県民、事業者など多様な主体が一緒になって、ネットゼロカーボンや海洋流出プラスチックゼロにも貢献するプラスチック・サーキュラーエコノミーの構築に取り組んでいます。



広島県 /Hiroshima Prefectural Government

7

## 広島県におけるプラスチック資源循環の取組

### ①海洋プラスチックごみ対策



2050年までに瀬戸内海に新たに流出する  
プラスチックごみの量を“ゼロ”にする

- 官民連携プラットフォーム「GREEN SEA 瀬戸内ひろしま・プラットフォーム」(GSHIP (ジーシップ))を中心とした取組展開

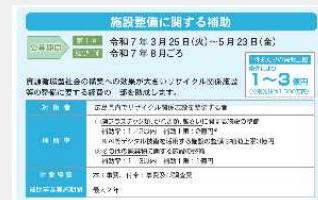


### ②プラスチックリサイクルの高度化



2025年までに 廃プラスチック類の  
再生利用率を76.4%にする

- リサイクル施設整備・研究開発支援
- 人材育成



広島県 /Hiroshima Prefectural Government

8

1. 広島県について
2. 社会情勢の変化
3. 広島県におけるプラスチック資源循環の全体像
- 4. 海洋プラスチックごみ対策**
5. プラスチックリサイクルの高度化

## 海洋プラスチックごみ対策

### 取組の考え方

- GSHIP参画会員等と連携しながら、「プラスチックの使用量削減」と「プラスチックの資源循環」の両輪で、本県を含む瀬戸内エリアでの資源循環モデル構築を目指す。

#### 1 使用量削減の取組の加速化

(代替素材化、新たなリサイクル、リユース等の循環利用)

- 代替素材化などにより、そもそも回避可能なプラスチック使用を合理化
- 新たなリサイクル等の循環利用を推進  
⇒ **プラスチックを排出しない経済構造と生活環境をつくる**



#### 2 サプライチェーン全体で プラの地域循環フローを構築

- 広島県をはじめ、瀬戸内エリアには、素材メーカーが多数立地  
⇒ **地域内で、素材を生産し、循環させていく、地域循環モデルを創出、実現**



カーボンニュートラルへの貢献

IT・AIなどデジタル技術の活用

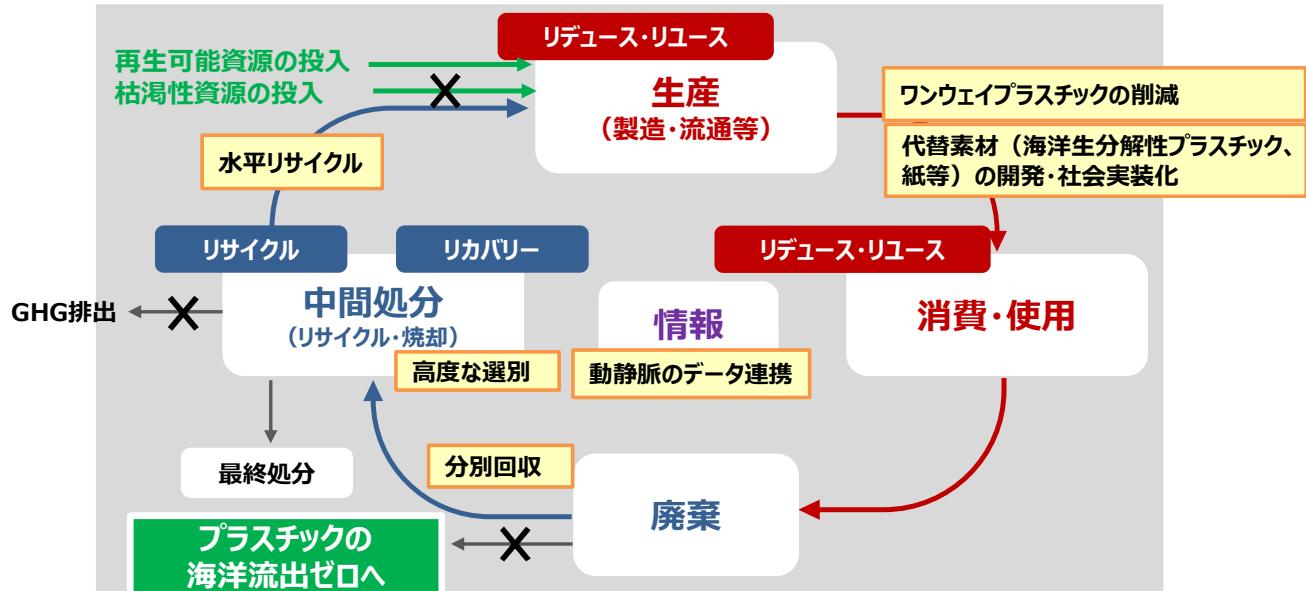
プラスチック資源に付加価値を与え  
資源自律経済に寄与

### 瀬戸内エリアで一体となって資源循環を実現

※経産省「動静脈連携による自律型資源循環システム強靭化等に関する調査分析」報告書（2023.3）より一部引用

## 海洋プラスチックごみ対策

- 動静脈連携のもと、「プラスチックの使用量削減」と「プラスチックの資源循環」の推進により、プラスチックごみの海洋流出ゼロを目指す。



## 海洋プラスチックごみ対策／GSHIPの設立

- 瀬戸内海の海洋プラスチックごみの多くは、周辺の陸域から流出したもの**
  - 発生源が特定しやすく、当事者意識を伴う対策ができ、成果を実感しやすいエリア
  - 関係主体と連携しながら、広島県が先頭に立って取組を推進

**目指す姿** **2050年までに瀬戸内海に新たに流出するプラスチックごみの量を“ゼロ”にする**  
**「2050 輝く GREEN SEA 瀬戸内ひろしま宣言」**を発表(R3.6)

**生活由来のプラスチックごみ対策**を行う**官民連携**の推進組織体  
**「GREEN SEA 瀬戸内ひろしま・プラットフォーム」(略称: GSHIP) 設立** (R3.6月)

- 参画会員：146者** (R8.1時点)  
 → 素材・製造メーカー、小売・流通、リサイクラー等の動静脈企業、関係団体、県内全市町 等



- 4つのキーアクションに基づき取組を推進**
  - ① **プラスチックの使用量削減**
  - ② プラスチックごみの流出防止
  - ③ 清掃・回収
  - ④ 情報発信・啓発



設立会見の様子

## 具体的な取組展開

### ● リーディングプロジェクトの創出

- ワンウェイプラスチックの削減、プラスチック代替素材製品（海洋性分解性プラ・紙等）の利用拡大、プラスチックの資源循環に資する先進的な取組を対象に、補助やGSHIP内でのマッチング等を通じて取組を加速化



【株式会社シンギ】  
サトウキビの搾りかす（バガス）から作る  
テイクアウト用お好み焼容器



【株式会社ダイセル】  
海洋生分解性プラスチック素材による歯  
ブラシの開発・利用、使用済み歯ブラシを  
原料とした牡蠣養殖用パイプへの転換



【三菱ケミカル株式会社】  
ペットボトルのラベルを再びラベルに戻す  
「ラベルの水平リサイクル」

R4～R7延べ件数：17件(10社)



**社会実装化に向けたモデル事例を多数創出**

## 社会実装化した取組例「バガスモールド容器」

- R4年度にリーディングプロジェクトとして「お好み焼容器“ひろまるバガス”」の開発・実証を行い、その後に販売開始
- R6年度には、たこ焼き容器の開発・商品化
- 既存のバガスモールド容器の活用も拡大  
(※県の食品ロス削減の取組「mottECO（モッテコ）実証事業」の持ち帰り容器にも採用)



リーディングプロジェクトによる挑戦



新商品へ発展



既存商品の価値の再認知

**プラスチック削減の取組をきっかけに、再生可能な資源の利用拡大に発展**

## 【参考】バガスマールドを用いた「mottECO」実証事業

- 食品ロス削減の取組として、「mottECO（モッテコ）」の普及に向けた実証を県内9店舗で実施
- 持ち帰り容器は、株式会社シンギのバガスマールドを使用（実証期間：R7年10月～11月）



【事業ポスター】



【持ち帰り客用注意喚起チラシ】



【食品ロス削減の啓発チラシ】

実証店舗数：4市（広島市、福山市、東広島市、廿日市市）  
9店舗



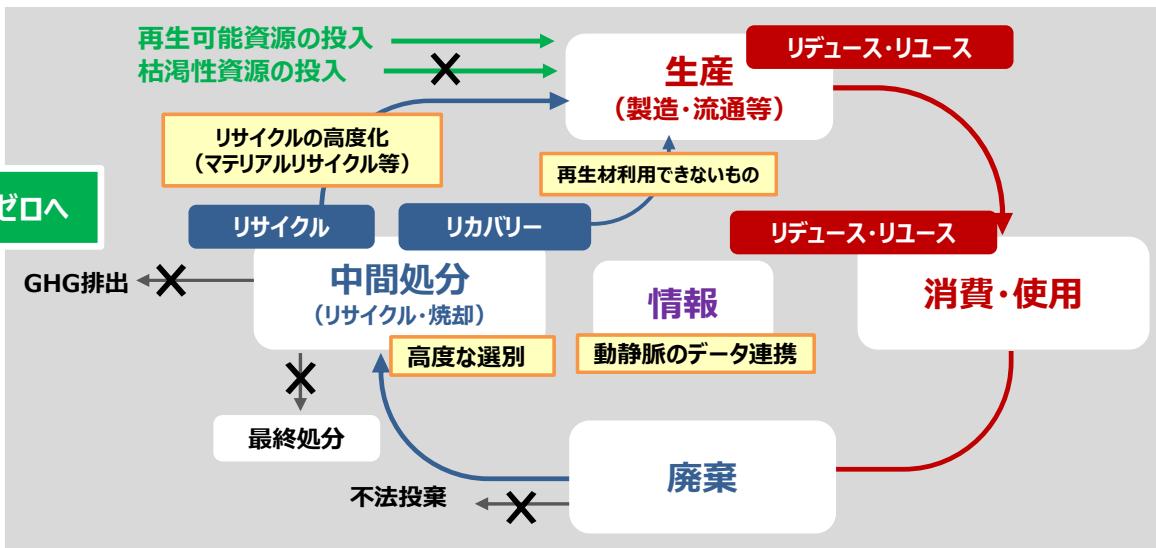
実証の結果、持ち帰り容器として問題はなく、今後、実施地区と店舗を広げていく予定

## 目次

1. 広島県について
2. 社会情勢の変化
3. 広島県におけるプラスチック資源循環の全体像
4. 海洋プラスチックごみ対策
5. プラスチックリサイクルの高度化

# プラスチックリサイクルの高度化

- 産業廃棄物として排出される多種多様な素材のプラスチックを資源として最大限循環させることにより持続可能なプラスチックの資源利用の実現を目指す



# プラスチックリサイクルの高度化

## 取組の考え方

- これまで焼却・埋立処理されていた廃棄物を徹底的に選別し、資源として最大限活用することで、資源循環サイクルを拡大させる
- リサイクルの質をマテリアルリサイクル等に高度化させ、動脈側が求める高品質の再生材を安定供給させる

## 1 リサイクル量の拡大

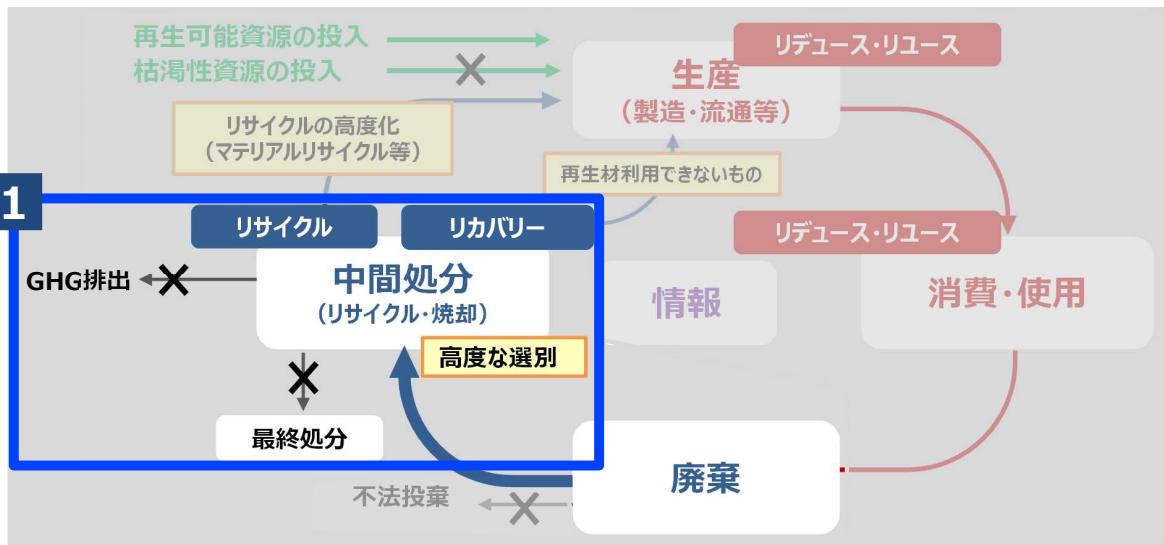
- 埋立や焼却される混合状態の廃棄物等をデジタル技術を用いた施設で選別し、再生利用を推進
- ⇒ 再生利用可能な廃棄物量を増やすことにより資源循環サイクルを拡大させる

## 2 リサイクルの質の向上

- 水平リサイクル（マテリアル・ケミカル）の推進
  - 動脈間のデータ連携
- ⇒ 高品質な再生材を安定供給するためリサイクルを高度化させる

## 1 プラスチックリサイクル量の拡大

- これまで焼却・埋立処理されていた廃棄物を徹底的に選別し、資源として最大限活用することで、資源循環サイクルを拡大させる



## 1 事例 高度選別による廃プラスチック類のリサイクル量の拡大

- 産業廃棄物の埋立を抑制し、資源循環の構築に資するリサイクル施設整備を支援。
- これまで埋立処理されていた混合廃棄物を振動選別機や光学選別機等の高度選別により、リサイクル可能なレベルに選別することが可能となった。

混合廃棄物  
・廃プラスチック  
・木くず  
・ガラス陶磁器くず  
など

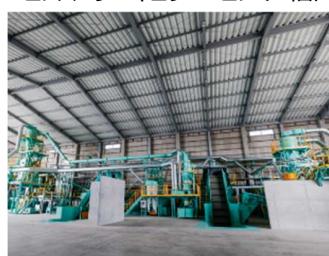


(株)マルシン (R 2 採択)



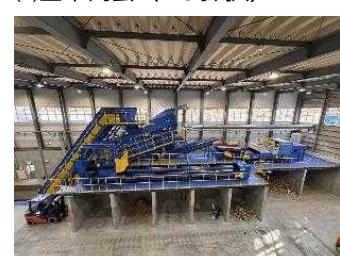
出典：株式会社マルシンホームページ

(株)オガワエコノス サーキュラー・エコノミー福山 (R3採択)



出典：株式会社オガワエコノスホームページ

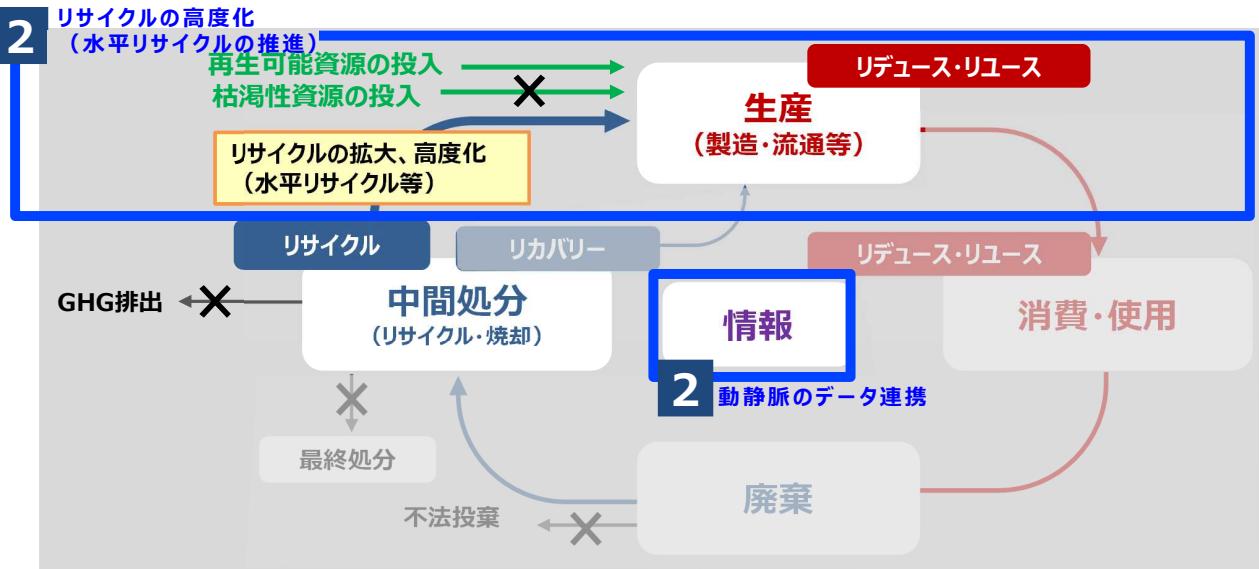
(株)金本商会 (R 5 採択)



出典：株式会社金本商会ホームページ

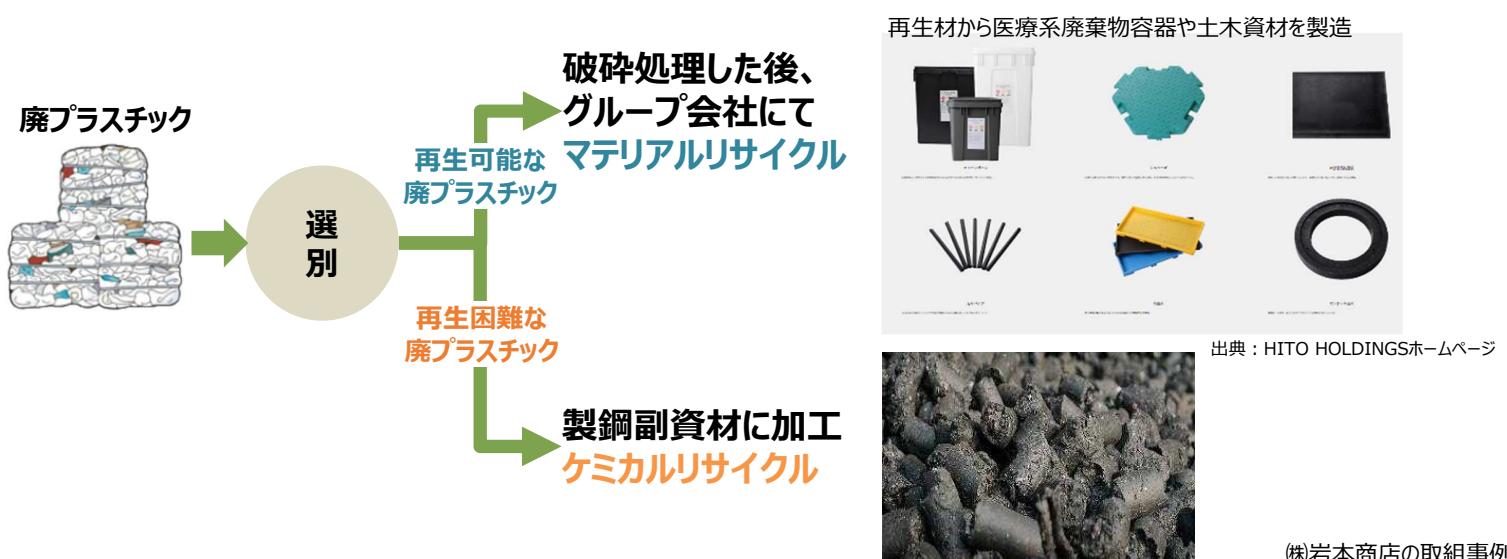
## 2 プラスチックリサイクルの質の向上

- 新たな天然資源の投入抑制に向け、リサイクルの質をマテリアルリサイクル等に高度化させる必要がある。
- 動脈側が求める高品質の再生材を安定供給するためには、動静脈双方のデータ連携が必要。



## 2 事例 リサイクルの質の向上（マテリアルリサイクル等）

- 産業廃棄物の埋立を抑制し、資源循環の構築に資するリサイクル施設整備を支援
- 再生可能な廃プラスを選別し、再生材として利用することで **新たな枯渇性資源投入を抑制**（マテリアルリサイクル）
- 塩素含有等で再生困難な廃プラスチック類であっても、製鋼副資材として最大限資源として活用が可能に



## 2 事例 動静脈連携に向けた資源循環システムの強化に関する研究 (R 6 ~)

- **動脈側が求める高品質の再生材を安定供給するためには、動静脈双方の情報が必要であるが、具体的な取組を行う上での情報（需要量と供給可能量、品質要件等）が不足。**データ連携も不十分
- 産学官が連携して、今後の動静脈連携に向けた課題の整理及び静脈側で取り組むべき方策を検討

### (1) 再生プラスチックの需要量と供給可能な量の検討



図2 再生プラスチックの需要増加量の推計結果

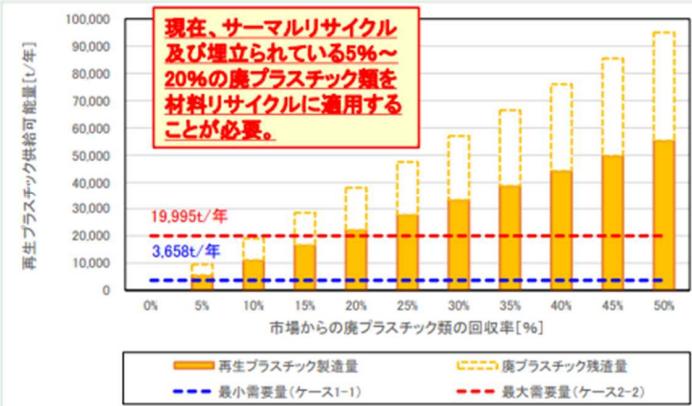
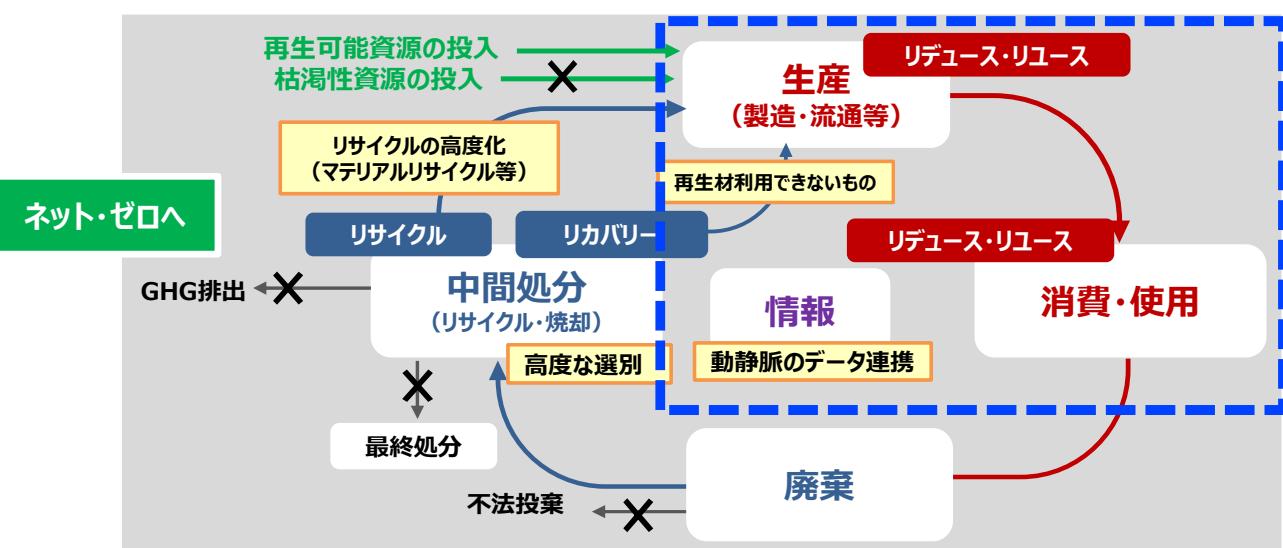


図3 再生プラスチックの需要に対応するための供給体制の推計結果

(一社) 広島県資源循環協会の取組事例

### 動脈産業と静脈産業が一体となった資源循環の実現に向けて

- 本県のリサイクルの現状は、リカバリーがメインとなっており、今後の動脈側のプラスチック需要増加に対応していくため、動静脈の双方に対してリサイクルの拡大・高度化に向けた支援をさらに加速していく
- 動静脈間のデータ連携に向けたトレーサビリティの強化や基盤整備を産官が連携して推進していく





ご清聴ありがとうございました。



## <事例報告⑤>

「観察大学のサーキュラーエコノミーへの取り組み  
～共創プロジェクト発 PCCP～」

観察大学 ソーシャルシステムデザイン学部

揚村 周夏、隼田 彩希、立山 祐名、小川 蒼空



# 共創プロジェクト発 PCCP

叡啓大学 ソーシャルシステムデザイン学部  
揚村周夏、隼田彩希、立山祐名、小川蒼空

叡啓大学 産学官連携 共創プロジェクト



価値探索プロジェクト 3ヶ月

学生実証プロジェクト 3ヶ月

## ① 企業の新しい価値を探索

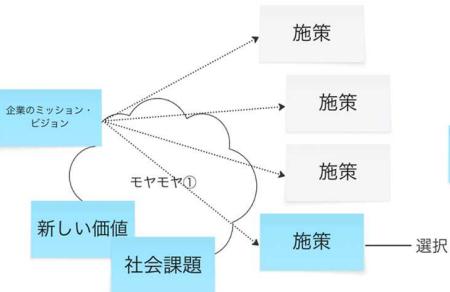
ワークショップにより意思決定を毎週おこなう

ミッション・ビジョンや解決したい社会課題から焦点を当てる価値を決め、実証したい活動を特定する。

企業経営層+  
プロジェクトリーダー



大学教職員



## ② 価値創出の実証実験

実験結果の報告と新たな方針決定を毎週おこなう

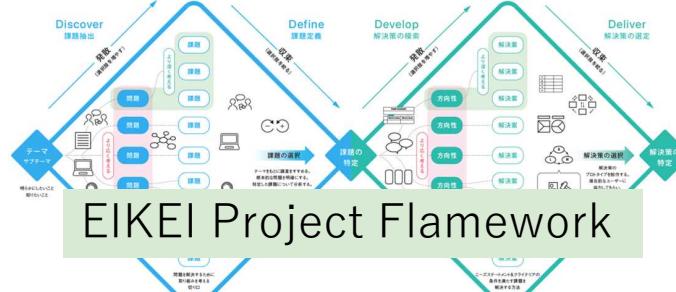
プロジェクト推進アプローチを学修済みの学生をメンバーに加え、価値創出の実証実験を繰り返す。

企業プロジェクト  
リーダー



学生

大学教職員



## 紙コップリサイクルをしないともったいない！

### 資源の無駄

本来は再生できる貴重な  
**「紙」資源（木材約1000本分）**  
を使い捨ててしまっている

### 環境への負荷

大量の紙コップが焼却されることで、CO<sub>2</sub>排出量が増加し  
地球温暖化の一因となっている

3

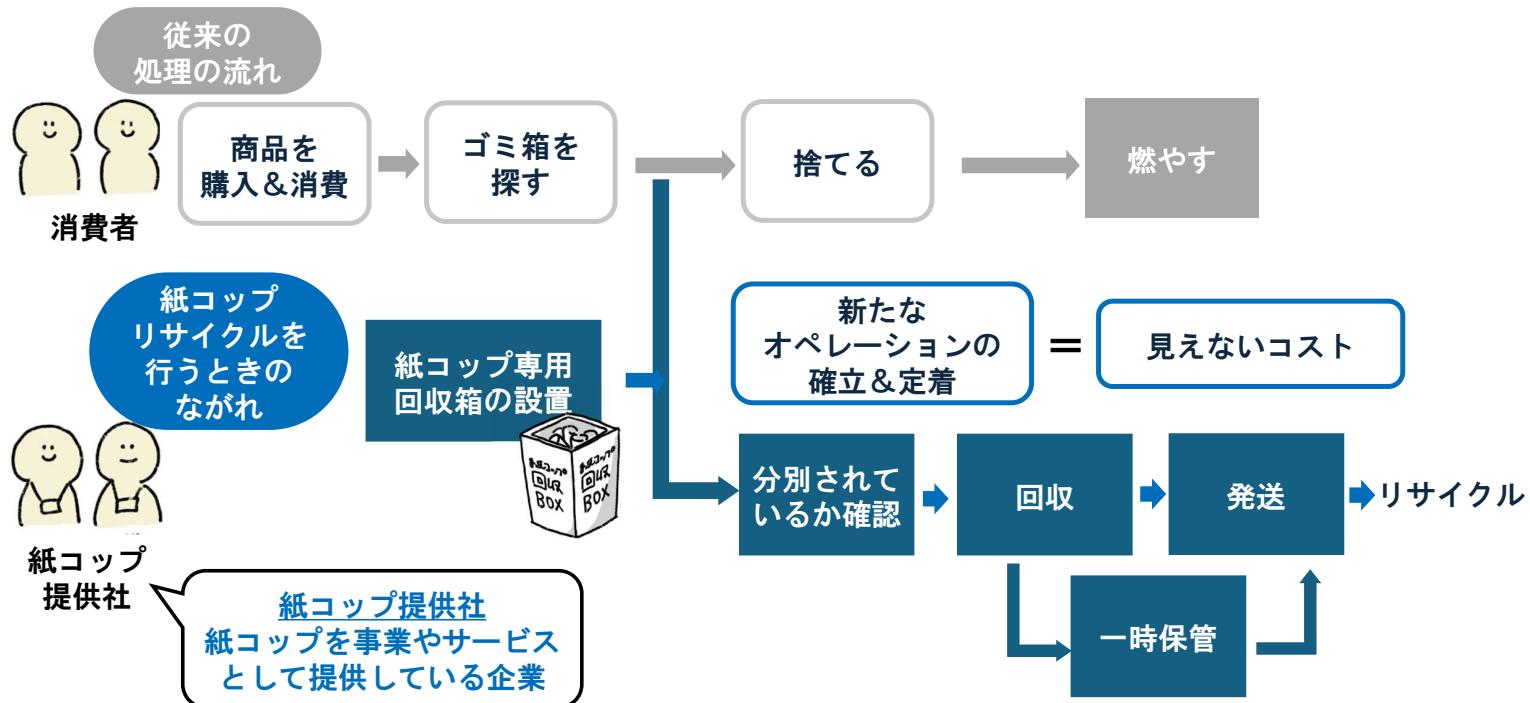
### 私たちがやりたいこと

## 資源循環の広島モデルを作りたい！

- ・年間のプラスチックごみっていったいどのくらいの量なの？  
そのうち、食品パッケージが占める量は？
- ・ユーザーごとに変わるオペレーションの確立
- ・広島の似た業種で、横展開がしたい
- ・食品パッケージ再資源化の啓発

4

## 紙コップリサイクルの最大の壁は「紙コップ提供社の作業負担」です



# Paper Cup Circulation Partnership

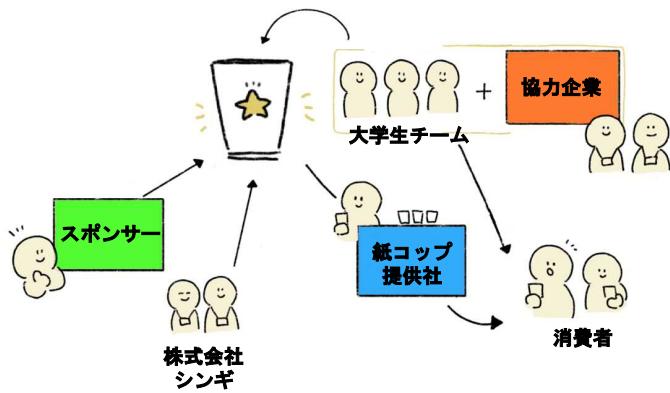


## Paper Cup Circulation Partnership

提供 → 回収 → 再生 → 活用 → 発信

パートナーシップを結ぶことによって

「使い捨て」が当たり前の紙コップを新しい社会的価値を生むビジネスモデルへ



### 1. 大学生が継続的かつ主体的に関わる

- ✓ 大学生チームが企業の情報発信を担う

### 2. 複数社で取り組む

- ✓ 紙コップ提供社・協力企業・スポンサー・学生が連携し、複数社で紙コップの資源化&商品やブランド価値の創出

お時間がなくとも  
お気持ちだけでも  
共創プロジェクト発 PCCP  
ブースにお越しください！！





Plastics  
Smart